

## (404) レーザー溶接機の操業状況概要

レーザー溶接機の開発(第1報)

川崎製鉄㈱ 千葉製鉄所

○弦田 登, 相原正樹, 福島 嶽

水島製鉄所

湯浅博康, 石井功一, 江藤孝治

## 1. 緒言

水島製鉄所No.2酸洗ライン, 千葉製鉄所No.4酸洗ラインの入側へコイル接続用として高出力レーザー溶接機を開発した。(S 58年5月, 7月) 各種の調整を終え、溶接品質の向上, 歩止の向上等において、効果を發揮しつつある。本報では、本溶接機の操業状況の概要について報告する。

## 2. 対象材と溶接条件

本溶接機は、Table 1の仕様において、低炭素鋼, 高炭特殊鋼, 高珪素鋼, 高合金鋼等、種々の鋼種に適用出来る。

各鋼種の溶接条件は、とくに次の点に配慮して、決定した。

(1) 十分な溶け込み量を確保する。

Fig 1に溶接速度と溶け込み深さの関係を示す。

(2) 低入熱溶接で、熱影響部を極力押さえる。

(3) 適正なギヤップ設定、および適量のフライワイヤー投入による溶着金属の材質改善を行なう。

以上により確立した溶接条件の一例をTable 2に示す。

## 3. 溶接部の品質

Photo 1に、レーザー溶接を行なった高珪素鋼の断面組織をMIG溶接と比較して示す。レーザー溶接の場合には、溶接部への入熱量がMIGに比べ、 $1/5$ 程度と小さく、結晶粒の粗大化がない。又、Fig 2には、高炭特殊鋼( $\approx 0.2\%C$ )の溶接部強度をフラッシュバット溶接と比較して示す。フラッシュバット溶接に比べ、溶接品質の向上による溶接部強度が飛躍的に向上する(約2~3倍)。又、Photo 2には、溶接部断面組織を示すが、溶け込み深さに対して、ビード巾が非常に狭い、ビードが得られている。

## 4. 結言

高出力レーザー溶接機の稼動により、フラッシュバット溶接では困難な、高珪素鋼, 高炭特殊鋼, 高合金鋼等のコイル大型化が可能となり、冷延での歩止, 生産能力向上に大きな効果が現われている。

Table 1 Specification of Laser Welder

	Mizushima Works	Chiba Works
Treated material	Hol rolled silicon steel; Medium carbon steel	
Thickness (mm)	1.6 ~ 6.0	1.2 ~ 4.5
Width (mm)	600 ~ 1650	610 ~ 1880
Tensile strength (kg/mm <sup>2</sup> )	Max. 80	Max. 120
Laser welder		
Welding speed (m/min)		Max. 10
Filler wire supplying device		Owned
Lens focal distance (mm)		254 (10')
Lens quality		ZnSe
Assist gas		Ar

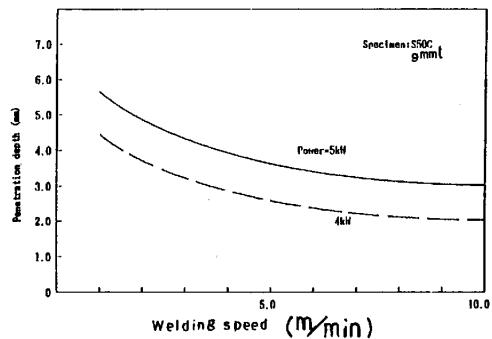


Fig 1 Variation of penetration depth with laser power and welding speed

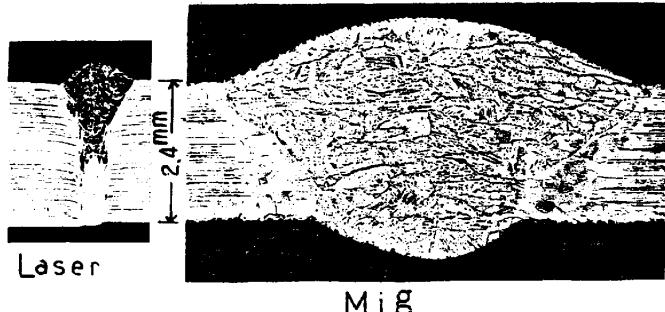


Photo 1 Cross section of high silicon steel joint Laser and Mig welded

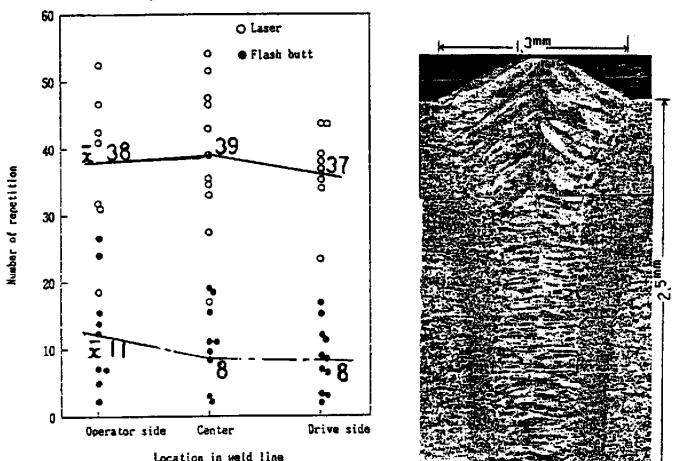


Fig. 2 Comparison of welded joint fatigue strengths by reverse bend test (JIS Z 3120) in both laser and flash butt welding of a medium carbon steel.



Photo 2. Cross section of high carbon steel Laser welded joint